

第60回国際宇宙会議(IAC) デジョン大会への参加について

※JAXAがIAC大会に一部参加したので、その概要を報告する。

平成21年11月 4日
宇宙航空研究開発機構(JAXA)
国際部長 粟沢 晃

国際宇宙会議(IAC:International Astronautical Congress)

- 主催：国際宇宙連盟(International Astronautical Federation: IAF)
国際宇宙アカデミー(International Academy of Astronautics: IAA)
国際宇宙法学会(International Institute of Space Law: IISL)

- 概要：毎年秋季に開催し、世界の宇宙関係機関や企業、大学等の関係者が参加。各国・機関の宇宙開発計画、学術研究成果の発表の場として、学生や展示参加を含め、全世界から2,000名規模の参加を得る、名実共に世界最大の宇宙関連会議。



<第60回IACデジョン大会>

- (1) 期間：平成21年10月12日(月)～10月16日(金)(5日間)
- (2) メイン会場：Daejeon Convention Centre(韓国・デジョン市)
- (3) テーマ：「Space for Sustainable Peace and Progress」
- (4) 参加者推定：約2200名

JAXAが参加した主なイベント・セッション

10月12日(月)

- ・Opening Ceremony (開会式)
- ・Opening of the Exhibition (展示施設オープン)
- ・プレナリーイベント1: Head of Agencies (宇宙機関長パネル)
- ・サイドイベント: "Head of Agency with Students" (機関長・学生セッション)
- ・学術セッション: "Human Space Endeavours Symposium"



10月13日(火)

- ・プレナリーイベント3:
 "Space can Help within the Context of Economic Crisis" (産業界パネル)
- ・サイドイベント: KARI/JAXA共催学生イベント及びISEBランチタイム・レクチャー

10月14日(水)

- ・学術セッション: Sustainable Utilization of the ISS Beyond 2015
- ・プレナリーイベント5: "Space Systems to observe
 and understand Climate Change" (気候変動セッション)

Plenary Event No.1: Head of Agencies (宇宙機関長パネル) 1 / 2

○日時: 10月12日(月)13:30-15:00

○概要: NASA、CSA、ESA、ISRO、Roscosmos、KARI、JAXAの各機関長より活動状況について紹介された。

日本(JAXA, 立川理事長)

世界的に取り組む気候変動問題への貢献としてGOSATのデータは科学者をはじめ広く提供されること、きぼうの完成、宇宙環境利用実験、H-II Bにより打ち上げたHTVが国際パートナーの協力により成功したことを紹介。

韓国(KARI, リー院長)

多目的衛星KOMPSATシリーズや静止通信・海洋・気象衛星COMSに関する紹介、また2025年までにローバームーン着地を目指す発言。

アメリカ(NASA, ボールデン長官)

ハッブル宇宙望遠鏡の観測再開、日本の実験棟きぼうの完成、HTVのドッキング成功への言及があった。また、オーガスティン委員会の最終報告待ちだが、ISS活動については、楽観的であり、世界的な協力関係を引き続き続けたいとの発言があった。

欧州(ESA, ドーダン長官)

気候変動問題関係としてGMES(全球環境・安全監視プログラム)の概要計画や、気象衛星EUMETSAT、欧州実験棟コロナバスの紹介。また、来年のソユーズロケットのギアナ宇宙センターからの打上げ等について言及。

Plenary Event No.1: Head of Agencies(宇宙機関長パネル) 2/2

ロシア(Roscosmos,ペルミノフ長官)

宇宙航行測位衛星(GLONASS)は今年中に6機が打ち上がりシステムが完成するとの発言、また、ISSはクルー交代により、現在6名体制で活動中。国際協力についてはこのISSがメインとなると発言。

インド(ISRO,ネミア総裁)

地球観測衛星IRS、遠隔教育のためのEDUSAT、海洋環視衛星Ocean-satの紹介、欧米協力の月周回衛星チャンドラヤーン1号の実績とロシア協力であるチャンドラヤーン2号の計画への言及、また地球観測衛星Megha-Tropiquesは来年早期に打ち上げると発言。

カナダ(CSA,マクレーン長官)

15回の有人宇宙飛行の実績や、宇宙探査及び宇宙の平和利用目的に関し、NASAとCSAの間で協力枠組みを締結したこと、また、プライオリティの高いものとして、気候変動問題への貢献が上げられた。



JAXAの関係する広報・教育活動

①展示

JAXAブースを開設。展示内容はHTV、H-II Bの打上げ成功、WINDS(ALOS)リアルタイム中継、GOSATの二酸化炭素計測デモなど。5日間に約1,800人の来場者があった。また、JAXA展示はIACデジコン大会の「2009 BEST EXHIBITOR」を受賞した。加えてAPRSAFブースを開設し、約900名の来場があった。

②教育活動

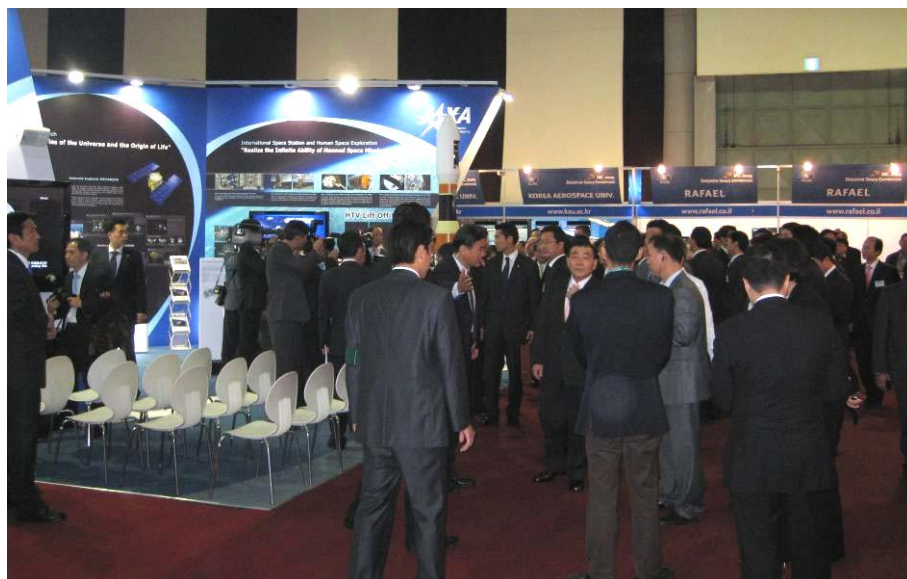
学生のためのセッション「HOAwithStudent」や、「KARI/JAXA共催学生イベント及びISEBランチタイム・レクチャー」を開催・参加した。また、例年より多い日本人学生41名をIACへ派遣し、派遣学生による日本の学生の宇宙活動の紹介や、CanSat活動の相互紹介等を中心とした、KARI派遣学生との共同イベントを開催。なお、IACに併せて地元的一般市民対象に開催されたスペース・フェスティバルにおいても、子供対象のイベントをJAXA派遣学生と共に企画・運営した。

③第18回マンフレッドラクス宇宙法模擬裁判大会

1992年より、国際宇宙法学会(IISL)が運営。今年はデジコン市内ソロモンローパークにて、「低軌道における武器の配備及び武力の行使」に関する事例が競われ、JAXAが派遣したアジア太平洋代表のインド大学が優勝した。

所感

- ・ 今回のIACは、イ・ミョンバク大統領の開会式参加を含め韓国(デジョン市)をあげての大会であった。
- ・ 本会合では各国機関長の発言等から、アジア太平洋地域協力や、国際協力への積極的な参加が強調された。
- ・ JAXAは、立川理事長の動画を使用した機関長セッションでのスピーチや、「2009 BEST EXHIBITOR」を受賞した広報活動を通じて、今年度の宇宙活動の成果を各国の参加者に広く認知させることができた。



展示開会式でのJAXAブースの様子



期間中のJAXAブースの様子